平成 25 年度
千葉市健康づくり推進協議会
第 1 回食育推進部会

議　事　録

保健福祉局健康部健康支援課

平成25年度千葉市健康づくり推進協議会 第1回食育推進部会 議事録

1　会議の名称

平成25年度千葉市健康づくり推進協議会 第1回食育推進部会

2　開催日時

平成25年12月25日（水）　午後1時30分から午後3時

3　開催場所

千葉市美浜区幸町1-3-9
千葉市総合保健医療センター　5階　大会議室

4　出席者

（1）委員

渡邊智子委員、大濱洋一委員、水谷哲夫委員、杉﨑幸子委員、岡部明子委員、藤沼照雄委員、清水葉子委員、畠山一雄委員、木川茂雄委員、伊藤和彦委員、永島玲子委員、緒方奈々子委員、大友信一委員

※欠席委員

木村多惠子委員、斎藤昌雄委員、斎藤克信委員、宮下泰恒委員

（2）事務局

豊田健康部長、角田健康支援課長、大八木消費生活センター所長補佐、
春名生活衛生課食品衛生担当課長、山本食品安全課長、鳰川高齢福祉課長、
大町こども企画課長補佐、村田健全育成課長補佐、松尾保育支援課長、
石渡保育運営課担当課長補佐、松田廃棄物対策課長補佐、植草農政課長、
福原農業経営支援課長補佐、石出農業生産振興課補佐、石原稲毛区健康課長、
山本指導課長、伊藤保健体育課学校給食担当課長、小川生涯学習振興課統括管理主事

5　議題

（1）部会長及び副部会長の選出について
（2）千葉市食育推進計画の評価について
（3）第２次千葉市食育推進計画（仮称）骨子案について
（4）平成２５年度食育のつどい報告について
（5）その他

6　議事の概要

冒頭、事務局から、千葉市健康づくり推進協議会設置条例第7条第7項の規定により、委員の半数以上の出席があるため、会議が成立している旨の説明があった。

（1）　部会長及び副部会長の選出について

部会長に千葉県立保健医療大学の渡邊委員、副部会長に千葉市医師会の大濱委員選出された。

（2）　千葉市食育推進計画の評価について

千葉市食育推進計画の評価について、事務局から説明を行った。

（3）　第２次千葉市食育推進計画（仮称）骨子案について

第２次千葉市食育推進計画（仮称）骨子案について、事務局から説明を行った。

（４） 平成２５年度食育のつどい報告について

平成２５年６月２２日・２３日に JA 千葉みらい農産物直売所 しょいか～ご千葉店で開催した食育のつどいについて、事務局から報告を行った。

（５） その他

今後の審議日程等について、事務局から説明を行った。

７ 会議経過

（１） 部会長及び副部会長の選出について

部会長に千葉県立保健医療大学の渡邊委員、副部会長に千葉市医師会の大濱委員が選出された。

（２） 千葉市食育推進計画の評価について

千葉市食育推進計画の評価について、事務局から説明を行った。

「資料１ 千葉市推進計画の概要」により、国・千葉県の食育推進の動向、千葉市食育推進計画の概要について、説明を行った。

「資料２ 千葉市食育推進計画の評価報告」により事業の評価と今後の課題について説明を行った。

【質疑応答等発言要旨】

＜委員＞

男性の肥満者の割合は、県では減ってきているが、千葉市では減少していない。何か原因等があれば伺いたい。

＜事務局＞

仕事をしている世代は、保健福祉センター等では直接アプローチをしにくいので、職域の各団体と連携していければと思う。また、健康づくり事業として、個人向けに歩数計アプリを使ったウォーキングの取組みを行うなど、運動の習慣づくりを促している。

＜委員＞

小中学校では栄養教育の成果か、数値が改善されているように思う。千葉県が作成している「ちば型食生活食事実践ガイドブック」には、一人ひとりの必要なエネルギー量を計算できるページがある。バランスがよくても食べ過ぎたら太ってしまう。一人ひとりの必要なエネルギー量の概算を知ると、栄養成分表示を見る際も参考になると思うので、このようなツールをアレンジして千葉市版として活用するのも一つの方法ではないか。4 ページにある「家族と食事をする子どもの割合」に×が多いが、両親が働いているなどで毎日は難しいならば、「週末だけでも家族と食事をする」など質問のハードルを下げてはどうか。

＜事務局＞

千葉市は東京近郊なので、平日は仕事で家族と一緒に食事をとるのが難しいのかもしれない。休日に家族で一緒に食事をすることを働きかけるなど、もう少し考えていく必要があるかと思う。

＜委員＞

幼稚園は市、県の指導監督のもとにあるが、様々な企業と連携して食育の講演や活動をしている。千葉県の食育ボランティア名簿には、工場見学などができる企業もあるので、県や企業と連携した活動はできないか。また、市のホームページを見てみたら、保育所の食育は載っているが、幼稚園のことはほとんど載っていない。市内に 100 近くある幼稚園でも、いろいろな食育活動を行っていて、ジャガイモやキュウリ、トマトなどの野菜を栽培、収穫したり、カレーを作ったり、もちつきをしたりと、いろいろな食育に関係することをやっているので、計画に入れてほしい。

自分の孫をみていると偏食がひどく、肉ばかり食べて野菜を食べないことがある。食生活の基本的な習慣は小さいときに形成されると思うので、是非行政と連携してやっていきたい。

＜委員＞

「家族と食事をする子どもの割合」は、小５は改善しているのに、小６は問題点があるのはどうしてか。６月にしょいか～ごで開催された「食育のつどい」に参加したところ、県立保健医療大学の学生がグー・パー食生活のカロリー計算を一生懸命やってくれて大変よかった。12 月にもしょいか～ごでイベントを行っていたが、食育の啓発がなかった。若葉保健福祉センターの「食事セミナー」という高齢者向けの教室に参加したところ、ヘルスメイト（食生活改善推進員）が運営してくれて、大変よい企画だった。食生活改善推進員がもっと増えるとよいと思う。食物アレルギーの問題があるが、実際食育の面ではどうしているのか聞きたい。

＜事務局＞

小５が改善している理由は詳しく把握していないが、小６になると塾へ行くことも増え、家族で食事をとれないのかもしれない。食物アレルギーは増えてきていると思うが、保健福祉センターの乳幼児健診等でアレルギーの相談を実施したり、保育所等の給食では、食物アレルギーに対応した食事メニューを作るなどの対策をしている。食生活改善推進員については、毎年募集をして増加に努めている。

＜委員＞

食物アレルギーに関しては、今後計画に付け加えてほしい。

＜委員＞

千葉市の食育のホームページのアクセス件数は１年間どのくらいか。関係団体にリンクを貼るなどの働きかけはしているのか。

＜事務局＞

食育のホームページのアクセス件数は把握していない。リンクを貼るように工夫していきたい。

＜委員＞

先ほどの質問で、12 月にしょいか～ごで実施したイベントについては 、食育のイベントではなく周年祭であり、全国の特産品の紹介などを行った。

＜委員＞

６月の食育のつどいと同じくらいの大規模のイベントだったので、食育に関する啓発もやってはどうかと思った。

（３） 第２次千葉市食育推進計画（仮称）骨子案について

「資料３　第２次千葉市食育推進計画（仮称）骨子案について」「資料４　第２次千葉市食育推進計画（仮称）骨子（案）]により、事務局から説明を行った。

【質疑応答等発言要旨】

＜委員＞

数値目標で、「家族と一緒に食事(夕食)」とあるが、夕食にこだわらなければならないのか。

＜事務局＞

現行計画にならって設定したが、家庭によっては、朝食の方が家族がそろう場合もあるだろうから、項目は今後検討したい。

＜委員＞

「一緒に食べる楽しい食事」と書いてあるが、一緒に食べるというのは同じ内容のものを食べるということではなくて、同じ場を持つというようにとらえていただきたい。乳幼児や高齢者な

ど、状況にあった食事を安全に食べることが大事である。

＜委員＞

食物アレルギーについては、何らかの形で取り入れたほうがよい。また、食育に協力してくれる企業、生産者等を積極的に開拓するとよいと思う。生涯学習センターにボランティア登録制度があり、食育に協力してくれる人がいるので、連携体制を組んで、そのような方に情報を提供していただきたい。しょいか～ごでの食育のつどいには、幼稚園も参加したが、子どもたちにはとても発信力があると思った。パネルシアターや歌など、食育に関する教材を活用して、子どもたちに啓発できると思う。

＜委員＞

数値目標に肥満者の減少、メタボ予防とあるが、咀嚼能力の衰えで丸呑みすることが肥満につながるということもあるだろう。アンケートを実施する際には、噛めるかどうかというのもいれてほしい。大人だけでなく、子どももきちんと噛むことができず飲み込む子もいるので調べてはどうか。

＜委員＞

食物アレルギーについては、栄養士会や養護教諭会などで研修会を実施して、そこに教育委員会や県、校長会の先生などに来ていただいて、連携・協働しているが、関係者だけでなく市民全体が理解することも必要である。食物アレルギーがいじめにつながる事例もあるようなので、個性としてとらえ、みんなで理解していくことは大事な視点である。

＜委員＞

数値目標に「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事」とあるが、今、和食が注目されていて、日本の伝統的な一汁三菜が見直されている時期に、この数値目標が新しく設定されたことはよいことだと意見として申し上げたい。

＜委員＞

高齢者のための介護食については計画に入っているか。

＜事務局＞

食育施策の展開「高齢期における食育の推進」の中で、内容を深めていきたい。

＜委員＞

国では、長寿を支える食事、寝たきりを防ぐ食事について審議している。来年夏には方針が示されることになる。大事なことなので手厚く書き込んでもらえるとよい。

＜委員＞

食事は内容も大事だが、安全に食べることも大事なので、窒息の問題などから、口腔機能を向上するという事業に取り組んでいる。介護が必要な方は、ケアマネージャーやかかりつけ歯科医に相談するのもよい。

＜委員＞

みんないずれ高齢者になり、嚥下機能が低下するので、口腔ケアは大事な取組みである。

（４） 平成２５年度食育のつどい報告について

「資料５　平成２５年度食育のつどい報告]により、事務局から説明を行った。

【質疑応答等発言要旨】

＜委員＞

当日参加した感想として、たくさん人が集まる場所で開催することできてとてもよかった。意欲のある人は講習会などに行くが、食に関心のない人はしょいか～ごに買い物に訪れることで、

食育を学ぶことができ、とてもよかったと思う。自分の興味あるブースだけしか参加しない人も多く、全部は見ない人もいたので、今後実施する際は、全体を見てもらえるような流れをつくるとよいと思う。

＜委員＞

会場を提供させていただいたが、快晴のうちに開催されてよかった。農産物直売所は、野菜を売るだけでなく、食育活動をしながら野菜を売る場にしていかなければならないので、継続して毎年利用してもらえればと思う。しょいか～ごは 8 年目を迎え、20 億の売り上げを達成した。大学とも連携していて、店長が大学の講師として行ったり、生徒からもしょいか～ごに対して、いろいろな食育の提案してもらったりしている。6 次産業化して千葉市の特徴のある加工品などができればよいと思っている。食育のつどいは、スタッフが集まれば、コストがかからずにできる事業なので、6 月と 12 月の年 2 回実施すれば浸透するのではないかと思う。

＜委員＞

幼稚園協会は今回初めての参加だったが、幼稚園の先生方もパネルを作ったりして熱心に準備していた。今後も予算を組んで、引き続き参加できるようにしていきたい。

＜委員＞

他の団体のブースを見て参考になった。回数を重ねるにつれて、参加している団体同士の連携も深まると思う。

＜委員＞

県立保健医療大学の栄養学科 1～4 年全学年合わせて 100 人くらい在学しているが、そのうちの 50 人が食育応援隊に所属している。看護学科や歯科衛生士学科の学生も所属し、学科を超えてイベントに参加し、交流できている。学生は授業や試験で忙しいが、長期休みの時は時間があるので、そのような時期はイベントに参加しやすいと思う。イベントへの参加を通じて、学生が千葉市の課題を知ったり、日頃の学びを役立てる機会になり、大変勉強になっているので、今後もぜひ参加させていただきたい。

（5） その他

今後の審議日程等について、事務局から説明を行った。

以上のとおり議事を進め、午後３時に閉会した。

以上

平成 25 年 12 月 25 日（水）開催の平成 25 年度千葉市健康づくり推進協議会 第 1 回食育推進部会の議事録として承認し、署名する。

千葉市健康づくり推進協議会　食育推進部会長

問い合わせ先　保健福祉局健康部健康支援課
電話　043-238-9926　ＦＡＸ　043-238-9946
電子メール　shien.HWH@city.chiba.lg.jp